



おおくす



「主体的・対話的で深い学び」を目指して ～授業研究～



長太小学校では、「わかる」・「できる」・「伸びる」などの喜びが味わえるような、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりに取り組んでいます。

この授業スタイルは、教師が一方向的に学習内容を教えるのではなく、子どもが自分から学習課題を解決していこうと、資料や教材を読んだり調べたりして自分の考えや意見を持ち、仲間と対話することにより、考えを深めていくというものです。

2、3年ほど前、この授業スタイルを始めたころは、慣れない学び方に戸惑う子どもも多かったのですが、今ではたくさんの子どもたちがこのスタイルを覚え、自分から学び、対話を通して学びを深めようとしています。学年が上がるにつれ、さらにこのスタイルが浸透してくると、子どもたちは、学びを深めるためにどんどん対話相手を求め、新しい資料や教材を探し始めます。それはやがて、「受け身で学ぶ力」でなく「自ら学ぶ力」となり、見通しの持てない未来の社会をたくましく生きる力につながるとされています。本校では、今後も授業研究に取り組み、令和10年度に鈴鹿市教育研究会の研究委託校発表会で、研究成果を発表していく予定です。



夏の納涼おどりの準備 ～5年生 灯籠(とうろう)作り～



6月26日(金)、5年生が、長太地区の納涼おどりに展示してもらう灯籠作りを行いました。今年も、まちづくり協議会の文化振興部会の方々を講師としてお招きして、作り方を丁寧に教えていただきました。ありがたいことに、今回も灯籠の木枠や和紙、ろうそくなどの材料はすべて準備していただきました。

子どもたちは、木枠をきっちりと組み立ててボンドで固定し、くぎを打ち付けてしっかりとした枠組みを作り上げていくことができました。灯籠の枠組みが完成したので、これに大楠や鯨船

などの絵を描いた和紙を張り付けたら完成です。文化振興部会の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

8月8日(土)に実施予定の納涼おどりでは、5年生が作った灯籠が展示され、点灯式が行われます。ご都合がよろしければ、子どもたちが頑張って作った灯籠に、明かりをともし様子をぜひご覧になっていただきたいと思います。また、この灯籠は、11月に予定されている町民文化祭でも展示されるそうです。



お金の使い方を考える ～3年生「お金のちしき」出前授業～



7月2日(木)3年生が、日本郵政グループさんに、「お金のちしき」の出前授業をしていただきました。

「硬貨の裏表はどちら？」や「昔、お金の代わりに使われていた品物は？」など楽しいクイズから始まり、お金の有効な使い方やお金を使う際の家庭のルールまでを各自がじっくりと考えることのできる学習になりました。

子どもたちは、生活に必要な物と、そうでない物を正しく分類し、生活に必要なではない「おもちゃ」や、「お菓子」などは、欲しくてもがまんでできる物であることを理解しました。また、お金を使うときには、お金を友だちにあげたり、おごったりしないことや、お金の貸し借りをしないこと等も確認することができました。お金をめぐるトラブルは、大人でも子どもでも、その後の人間関係や人生を大きく変えることさえあります。小学生のうちに、お金を使うときのルールやマナー、適切な金銭感覚を身につけ、お金を大切にできる人になってほしいと思います。今回の出前授業には、長太郵便局の局長様をはじめ、ゆうちょ銀行・日本郵便株式会社の皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。

☀ ☀ ☀ 熱中症予防のための対策について ☀ ☀ ☀

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
31℃以上 35℃未満	28以上 31未満	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いため、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28℃以上 31℃未満	25以上 28未満	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24℃以上 28℃未満	21以上 25未満	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

7月を迎え、熱中症が心配される時季になってきました。学校では、熱中症を防止するため、環境省の暑さ指数(WBGT)の基準に則り、体育の授業や休み時間の外遊びの前には、暑さ指数(WBGT)を計測し、慎重に対応しています。

また、登下校や外出時の帽子の使用、教室・体育館のエアコンの常用と定期的な換気、水分補給の励行、運動時の適時休憩、日陰の活用などにも気を付けています。

しかしながら、暑さに耐える力には個人差があるため、お子さんの当日の体調や、その時間の活動量、体に溜まった熱の放散状態によっては、暑さ指数21未満でも軽い熱中症の症状がみられることがあります。熱中症のような症状がみられた場合、学校では、保健室等で直ちに応急処置を行います。処置しても症状が緩和されなければ、状況によって、救急車を要請するか、おうちの方へ連絡をさせていただきます。このような連絡があった場合は、できるだけ速やかにお迎えをお願いいたします。

ご家庭でも、熱中症を予防するため、普段から暑さ対策に取り組んでいただくとともに、水分や栄養、睡眠もしっかりとり、体調管理に努めていただきますようよろしくお願いいたします。